

STAGE+を楽しむ(105)(HP 収載)
—ラフマニノフのピアノ協奏曲—

1. 始めに

前報(104)に引き続き、STAGE+のワイセンベルクによるラフマニノフのピアノ協奏曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ワイセンベルクによるラフマニノフのピアノ協奏曲の演奏を選びました。

ワイセンベルクとカラヤンの共演～ラフマニノフのピアノ協奏曲

フィルハーモニー，ベルリン 1971年

収録日: 1973年9月11日

20世紀を代表するピアニストであったアレクシス・ワイセンベルク。彼は一時自らの鍛錬のために活動を休止しましたが、ヘルベルト・フォン・カラヤンのバックアップのもと華々しく活動を再開しました。二人の共演映像は1967年にチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を映画風に撮影したものも知られていますが、1971年収録のこちらの映像ではラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を、ライブとして臨場感たっぷりに堪能できます。

ソリスト:

アレクシス・ワイセンベルク (ピアノ)

演奏:

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ヘルベルト・フォン・カラヤン

曲目:

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調 op. 18



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

ワイセンベルクとカラヤンのコンビは、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番の演奏で、[STAGE+を楽しむ\(72\)](#)でも報告のとおり、圧倒的な迫力を感じましたが、このラフマニノフでは、いかにもこの曲らしいロシア的な憂愁の趣をたたえた演奏になっています。

速いパッセージでも、互いに目を合わさずとも、ワイセンベルクの打鍵とカラヤンのタクトがぴったりあっています。終盤の盛り上がりも見事です。





4. まとめ

LAN アクライザーや Crstal EpL の効果により、ワイセンベルクとカラヤンのコンビによる、ラフマニノフらしいメランコリックな抒情性に富んだ演奏を再現しています。」

以上